



当別高校生も土のう積み体験



陸上自衛隊の手際よい土のう積み



泉亭町長の住民避難勧告で訓練を開始



平成17年度 石狩川水防公開演習

みずから守ろう地域の安全 みんなの力と備えの知識

6月18日、北海道開発局と北海道、当別町を含む近隣市町村との大規模な水防公開演習が行われました。会場は札幌大橋に程近い当別川河川敷。

関係市町村の消防団や陸上自衛隊、北海道警察などの参加者と町内小学校児童や見学者などの来場者合わせて約5,200人が集まった会場では、大型台風による当別川が氾濫する想定で、泉亭町長の住民避難勧告から始まり、土のうを積み「水防工法訓練」、道警のヘリコプターやボートでの「水難救助訓練」などの緊迫した様子が、巨大スクリーンに映し出されました。

この地域は、幾度とない当別川の氾濫に田畑や住宅が冠水しながらも、河川改修と住民同士の助け合いで復興を果たしてきました。24年前の昭和56年8月豪雨は、堤防の決壊による田畑の冠水や339棟にも及ぶ家屋の浸水など西当別地域を中心に全町にわたって大被害をもたらしました。

また、昨年は全国各地で台風による水害が発生し、本町も強風による大きな被害を受けた台風18号の脅威は記憶に新しいところです。

私たちは、これらの災害を忘れることなく、このような水防演習を契機に被害を未然に防ぐ手立てや地域での取り組みなどを考えていく必要があります。

また、各家庭でも、普段から防災用具の備えや家族同士の話し合いなどを重ねることが、防災意識向上につながるのではないのでしょうか。

昭和56年8月豪雨による当別太付近の被害の様子。当別川が堤防すれすれまで氾濫し今回の水防演習会場一体が冠水している。



写真提供 新森敏幸さん



道警ヘリで孤立者を救助



救命ボートで水難者を救助



地震倒壊家屋からの救助



転落車両からの救助



真剣な表情で訓練を見つめる小学生



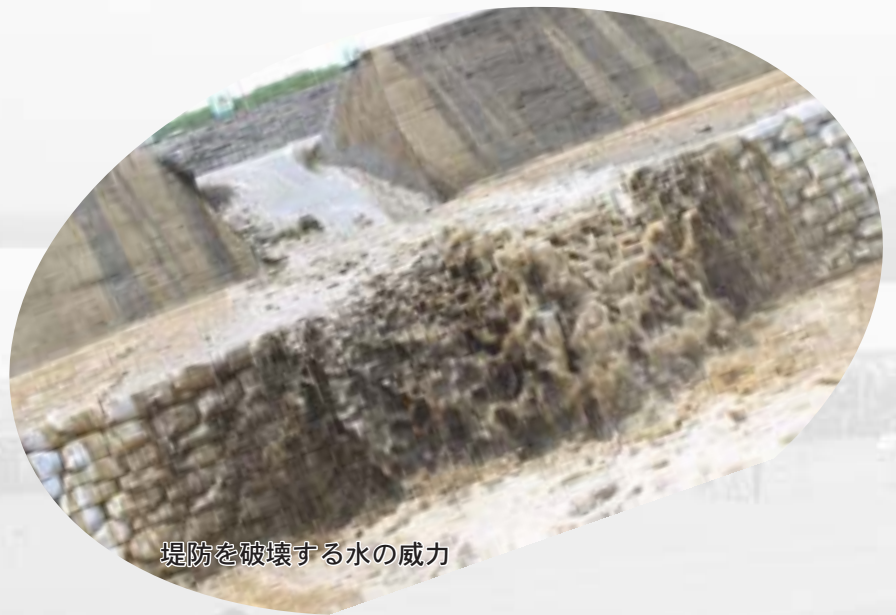
完全装備で大雨を体験



消防車両による事故車引き上げ



陸上自衛隊車両による仮設橋設置



堤防を破壊する水の威力



会場を盛り上げた各地域のステージ発表

